

WEB 上における大学図書館紹介動画の現状

藤井 綾乃

インターネット動画メディアが大きな情報拡散力を持つようになった現在では、多くの大学が YouTube チャンネルを保有し、大学の情報を発信している。新型コロナウイルス感染症の流行後、大学の情報発信の一部として、もしくは大学内で開催できないオリエンテーションの代替手段として図書館紹介動画を公開する大学が増えている。大学図書館紹介動画は、実際に利用対象者が図書館に赴けない状況でも、図書館に関する情報を伝える役割を担っているといえる。

しかし、大学図書館紹介動画の研究においては、紹介動画を制作した経験についての個別の報告は、複数存在するものの、大学図書館を紹介する動画について、その視聴回数や公開状況について総合的に調査をおこなった研究は、ほとんどみられない。

そこで、本研究は、大学図書館が公開している紹介動画にその状況を調査し、どのような傾向があるかを考察することを目的とした。

調査は、大学図書館が Web 上で配信している図書館紹介動画を対象とした。調査項目は、動画の視聴回数、動画の公開状況（公開されているサイトと、リンクなどサイトへのアクセスの態様）、動画の公開年、動画の長さ（再生時間）、動画の撮影スタイル（「客観説明型」か「人物主観型」か「利用者中心型」か）とし、視聴回数と他の項目についての関連についても考察した。

その結果、動画の視聴回数では、動画によって大きな差があり、視聴回数を示すグラフの形状はロングテールとなっていること、動画の公開状況では、YouTube 上での一般に向けての公開が 60%と過半を占めていること、公開状況と視聴回数との関連では、図書館のサイト以外にも動画への導線を設けることで視聴回数が増える可能性があること、動画の公開年はコロナ禍に見舞われた 2020 年以降急増しており、図書館紹介動画の重要性が以前にも増して高まっていること、動画の長さ（再生時間）とその視聴回数との関連では、再生時間が短いほど視聴回数が多いという傾向があること、特に「10 分未満」のグループと「10 分以上」のグループに二分した結果は、その差が顕著であること、動画の撮影スタイルと視聴回数との関連では、運営者側の立場からの説明だけよりも、利用者側の視点を意識した構成を用いることが重要であると示唆されることが明らかになった。

本研究は、Web 上で公開されている大学図書館紹介動画を対象としたという限界があるが、本研究の知見は、大学における動画による情報発信についての研究にも資するものと考えられる。今後は、大学図書館側における動画の制作事情についての調査および視聴者側における反応と利用状況についての詳細な調査がおこなわれることが期待される。

(指導教員 辻 泰明)